炭鉱の記憶 情報

発行
NPO法人炭鉱の記憶推進事業団
理事長 吉岡宏高
夕張市本町2丁目 西野回陽堂内
http://www.soratan.com/
info@soratan.com

No. 004
2009/06/01

## 岩見沢駅が新装開業

1933年に建築された印象的な建物の中に、炭鉱地帯の拠点として栄えた面影を色濃く残していた岩見沢駅。2000年の火災により焼失した後は、長らくプレハブ駅舎が続いていました。デザインコンペによって新駅舎と公共施設との建築案が選定され、2007年に駅舎部分が暫定開業していました。

去る3月30日、残っていた公共施設（有明交流プラザ）と駅南北を結ぶ自由通路（有明連絡歩道）がオープンし、新たな岩見沢駅の全容が姿を現しました。駅舎と公共施設が一体化した長スパンの建物は、レンガ・鉄骨（レール）・ガラスのデザインが美しく、空知の中心都市の玄関口としてふさわしい姿となりました。

また、連絡歩道によって、明治の北海道炭鉱鉄道時代に建設され、北炭の社章を掲げる旧鉄道工場（現・JRレールセンター）へも容易にアクセスできるようになりました。駅改札内の跨線橋やホームは、国鉄時代の雰囲気を残したまま残っています。古レールが鉄骨として使われ、中には米・カーネギー社や独・クルップ社製の1800年代後半に製造されたレールもあり貴重です。新装なった岩見沢駅を、是非ご覧下さい。

## 今野勉さん新刊『テレビの青春』

前理事の今野勉さん（夕張・北炭登川砿出身）が、新たな書籍を発刊しました。今野さんがTBSに入社した1959年から、同僚とテレビマンユニオンを創立し独立する1970年までの12年間の怒濤の記録です。先に朝日文庫から復刊された『お前はただの現在にすぎない』と同時代の、テレビ現場の生々しい姿と今野さんの足跡が描かれています。

今野さんは、本の「あとがき」で、ある編集者（田澤さん）が連載記事を書くことを促し、それが出版に至った経緯と心境について述べています。

> 正直言って、私は、過去の体験を綴るという作業が生産的とは思えなかった。それで返事を曖昧にしていた。しかし田澤さんは諦めなかった。折りに触れて声をかけてくれた。一年余り経った頃、ふと私は気づいた。彼はただ過去の話を語れと言っているのではないのだ。
> あの時代に何があったかを思い出すことが、今のテレビも必要になっているのだ、という切迫感があるからこそ、彼はこんなにも執拗になっているのだ。歩みをとめて振り返れ、と言っているのではない。歩きながら振り返れ、と言っているのだ——。

炭鉱について、地域と日本の未来のために、多くの人へ執拗に声をかけ続ける…編集者・田澤さんのような存在が、空知における我がNPOではないか…と思いながら、今野さんの「あとがき」を読みました。

今野 勉『テレビの青春』NTT出版
A6版・512ページ・2,940円

## 今夏の行事予定

今年の活動シーズンには、空知と海外・全国を結ぶ大型催事を企画しています。詳細は、開催日が近くなってからご案内しますが、まずは手帳にカレンダーに、チェックを入れておいて下さい。

**アーカイブス（史料収集・保管）の日英ワークショップ**

**8**月**7**日㈮ 美唄市・**8**日㈯ 岩見沢市
イギリスを代表する旧産炭地域ウェールズから4名の研究者が来訪。史料の収集・活用について、現地の炭鉱コミュニティーとのかかわりを含めた話が聞けます。

**近代化産業遺産シンポジウム**

**10**月**17**日㈯・**18**日㈰　岩見沢市
全国の近代化産業遺産を巡る活動に取り組む関係者が、一同に会して、各地の取り組み状況を互いに共有しあうフォーラムを、空知支庁との協働により開催します。メインスピーカーには、産業遺産や地域資源を活用した地域づくりの第一人者である、東京大学の西村幸夫教授（世界遺跡記念物会議=ICOMOS=前副会長）をお招きします。

**▼ドイツ・ルール地域の炭鉱遺産**

Bottropの PROSPER 炭鉱第二立坑。下のレンガ部分の立坑は、マラコフタワーという初期形態の立坑で、当初はこの建屋の中に巻き上げ装置が内蔵されていました。バトルメント（城塞にあった銃眼を模したデザイン）のある外壁の意匠も凝っています。その後、坑道深部化に伴い立坑の大型化の必要が生じましたが、この立坑の面白いのは、マラコフ式立坑の上に新たな立坑を継ぎ足したところにあります。

# 新役員の紹介

２月の総会で選任された役員から、自己紹介と皆さまへのメッセージをお届けします。

**吉岡宏高 理事長**

1963 年生まれ、父が北炭幌内鉱労務課職員だったので高校まで三笠市で育ちました（幌内小→幌内中→岩見沢東高）。母は北炭平和鉱の出身です。血液型は B 型、10 月 1 日生まれの天秤座、動物占いは「ひつじ」。時間的には NPO 理事長が本業のようになっていますが…札幌国際大学観光学部で教員もやってます。
1976 年、中学１年の時に、幌内から閉山直後の万字炭鉱へ出かけて以来、国内外の産炭地域・炭鉱跡を訪ね歩いて三十余年。知識を得るほどに、歴史に名を残す地で育った幸運を感じてきました。故郷の地に刻まれた場の記憶と見えざる歴史の蓄積が、そのまま朽ちるのは「もったいない」という思いが、私を空知での活動に駆り立てます。

**植村真美 副理事長**

1976 年３月 30 日に赤平で誕生。可愛くないおひつじ座。大雑把なA型。どちらかといえば体育会系。好きなことは、ぶたグッツ集め。日頃の習慣､ポジティブシィンキング。
建設業者の家系に生まれ、大学時代に社会景観づくりに対して興味を持つ。愛知万博会場建設に伴う環境影響評価から、これからの建設業は、地域住民と事業者の狭間に立ち、まちづくりコーディネーター役となることが求められている感じる。それから、現場と密着したまちづくりの在り方を求めて、2003 年に赤平に戻る。父が経営する建設会社で働きながら、地元のまちづくり団体に所属する。元気で新たなまちづくりをする上では、過去を振り返ることが重要と感じ、空知を築いた炭鉱にはまる。ドイツルール地方 IBA エムシャーパークに刺激を受け、空知も負けるもんかと日々奮闘中。地域が元気であるための秘策をこの NPO を発見できたらと思っています。空知は楽しいよ～！

**熊谷隆文 理事**

1981 年に石炭の歴史村観光に入社し、主に博物館施設担当（学芸員）、2002 年～ 2006 年の自己破産まで石炭博物館館長。2008 年２月に、清水沢で中国足心道夕張治療院 足揉み専門「博仁館」を開業し、同年 10 月には精神対話士資格（7 メンタルケア協会）を取得し精神対話士としても活動しています。趣味は、源泉掛け流しの温泉巡りです。現在取り組み中の研究テーマは、自分が生まれ育った夕張市清水沢の明治期からの地域史で、掘り起こしを始めているところです。炭鉱の記憶（歴史）を掘り起こし伝えていくことは、心が壊され、身体も壊されていく混迷の現代社会において､どう生きるべきか、未来への指針を探ることにもつながっていくような気がします。
1957 年、夕張市清水沢生まれ。

**酒井裕司 理事（新任）**

今年度より理事となりました酒井裕司です。出身は札幌市、小学校・中学校・高校と市内で過ごし、大学時代は弘前で農学を学びました。卒業後、造園コンサルタントで公園緑地の設計や計画、地域づくりなどの業務に従事、2008 年、「イメージランドスケーププランニング」を設立し、屋外空間の計画・デザインや景観、まちづくりを行っています。趣味は旅行、サッカー、アート活動、単車など。2000 年のドイツ・ルール地域への視察を契機に、デザイナー仲間とともに三笠幌内炭鉱跡での活動などを行い、炭鉱の記憶へ関わってきました。今後の活動抱負としては、炭鉱遺産と自然やアートを結びつけた活動、具体的な空間計画に係わっていければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

**佐藤裕子 理事**

炭鉱が華やかな 1960 年代、夕張本町で事務器・文具などを北炭に納品する店の子どもとして生まれ、高校までは夕張で過ごしました。学生から社会人になるまで札幌にいましたが、1993 年にUターンし、家業を継承して現在に至っています。４月 18 日生まれの牡羊座、趣味は春・夏はガーデニング、秋・冬はリース作りかしら ?! 日頃の雑音を忘れ、お花作りなどに夢中の間は、何も考えなくって、結構いい気分転換になります。何かと注目されることの多い夕張市、時折、自分の置かれている現実に…呆然とすることもありますが…。愛すべき我が故郷、そして何より大切な仲間がいます。本当につらい日々はこれからやって来ます。まぁ～エトセトラと思いこなして行くしかありません。
今の旧産炭地の置かれている現実、これからの日本の縮図と言われる夕張の様子を、アンテナを高く張り、皆さんへ**正確に**、街の移り変わりの様子や市民の動向をご報告できればと思います。

**三上秀雄 理事**

1950 年、泊村の茅沼炭鉱生まれ。父が炭鉱で働いており、1964 年の閉山で赤平へ。18 歳で住友赤平鉱に採炭員として入社。後に職員として、主に採炭現場を担当していました。23 歳の時に救護隊へ入り､数多くの災害に出動しました。40 歳の時に、救護隊指導係として、また救急法指導員として、訓練時の指導・救急法の講習を行ってきました。1994 年の閉山まで、25 年間炭鉱で働いてきました。
2005 年に、赤平コミュニティー ガイドクラブ「TAN tan」を設立し、赤平立坑や旧工場に大型坑内機械類を展示している施設を案内しています。今後も、炭鉱で働いていた経験を生かして、活動していきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。
趣味は山菜採りで､「炭鉱（ヤマ）の男」から「山（やま）の男」として、野山を走り回っています（空知川の支流でヤマベやニジマスも釣れます）。炭鉱遺産･文化･山菜の宝庫である赤平に、みなさま、ぜひいらして下さい。

**大橋二朗 監事（新任）**

炭鉱との関わりは、生まれ育った上芦別は、三菱炭鉱のあった所で、閉山後も施設や炭鉱住宅などを市や民間企業・個人へ譲渡した関係で、今でも炭鉱住宅が多く残されている地域です。私も２階建４戸のブロック住宅（その頃は市営住宅）で育ちました。もともと祖父が樺太で三菱炭鉱の鉄道・木材関係の会社をしており、終戦後引き上げてくる際に、三菱炭鉱のあるここにやって来たと聞いています。今は、その会社を受け継ぎ、水道設備業として続けております。しかしながらここ数年の間にも、その建物や施設がどんどん取り壊され､多くの「炭鉱」の記憶が失われてしまいました。これからは、この地域で繁栄し衰退し遺産となってしまった沢山の「モノ」や「文化」を、次の世代へ残してゆく活動に、微力ですが努めてまいりたいと思います。
芦別市生まれ、41 歳、2 大橋設備工業 常務取締役。

**加藤愉朗 監事（新任）**

皆さんはじめまして、赤平市在住の加藤と申します。今回、縁があり当会の監事という役職をさせていただくことになりました。炭鉱との関わりは、赤平に住んでいながら自営業という関係で直接の関係はありませんでしたが、以前植村副理事長に頼まれツアーのお手伝いをした時に、改めて産業遺産を見直しました。そこにある遺産の錆び方や、コンクリートの朽ち方などに興味を持ち、産業遺産を含めいろいろな写真の撮影に全道まわっています。監事という以外にどのような形で力になれるかわかりませんが、できる限り頑張りたいと思いますのでよろしくお願いします。
ホームページ開設しており、産業遺産の写真をメインに掲載しておりますので一度ご覧ください。

http://www.northruins.com/

1967 年生まれ。職業は屋外広告業、趣味は写真撮影とサウナです。